

information

cloud input

big data

media

Web3.0

inforoid

artificial intelligence

solution

information

technology

2026年3月期 通期決算説明資料

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド【4436】

2026年5月19日

免責事項

- 本資料は、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド（以下：当社）及び当社グループの業界動向、事業内容について、当社による現時点における予定、推定、見込又は予想に基づいた将来展望について言及しています。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。すでに知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります。
- 当社及び当社グループの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合があります。
- また、本資料における将来展望に関する表明は、2026年5月19日現在において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

big data

media

index

solution

technology

information

01	はじめに	...	4
02	2026年3月期通期連結業績	...	6
03	2027年3月期通期連結業績予想	...	15
04	情報資産ドリブン型成長事業の 進捗	...	19
05	Appendix	...	23

artificial intelligence

構造改革による黒字体質への転換は完了
今期以降は『営業利益の年率30%以上の成長』を継続的に追求

安定黒字体質への転換

2025年3月期に掲げた成長投資中事業も含む不採算事業の撤退および固定費の最適化を完遂し、営業黒字を継続的に創出できる収益体質へ転換

営業利益成長
年率30%

ストック型収益の拡大と高付加価値サービスの展開により、売上高成長率を上回る営業利益成長率（利益率の向上）を実現し、営業利益のCAGR30%以上を継続的に追求

強固なビジネスモデル

既存の情報資産を核とした「積み上げ型収益モデル」（売上増 \div 利益増）に経営資源を集中。当社のビジネスモデルである高い限界利益率を活かし、効率的な利益成長を実現

big data

media

index

solution

technology

information

01	はじめに	...	4
02	2026年3月期通期連結業績	...	6
03	2027年3月期通期連結業績予想	...	15
04	情報資産ドリブン型成長事業の 進捗	...	19
05	Appendix	...	23

artificial intelligence

【通期決算サマリー】

- 構造改革効果と基盤事業の安定推移により、利益創出力は期初想定を上回り向上
- 安定黒字体質への転換に伴う税効果の回収可能性の向上等により、2026年3月期の当期純利益は過去最高を更新
- 2027年3月期以降は**年率30%以上の継続的な営業利益の積み上げ**を図る

26/3期連結業績と27/3期業績予想

(百万円)	前期実績	26/3期通期	27/3期予想	増減
売上高	10,548	8,780	9,000	2.5%
営業利益	▲1,911	549	720	31.0%
営業利益率	-	6.3%	8.0%	1.7pts
経常利益	▲1,993	412	550	33.5%
親会社株主帰属当期純利益	▲5,525	742	500	-32.6%
E B I T D A	▲711	1,436	1,700	18.4%

27/3期業績予想について

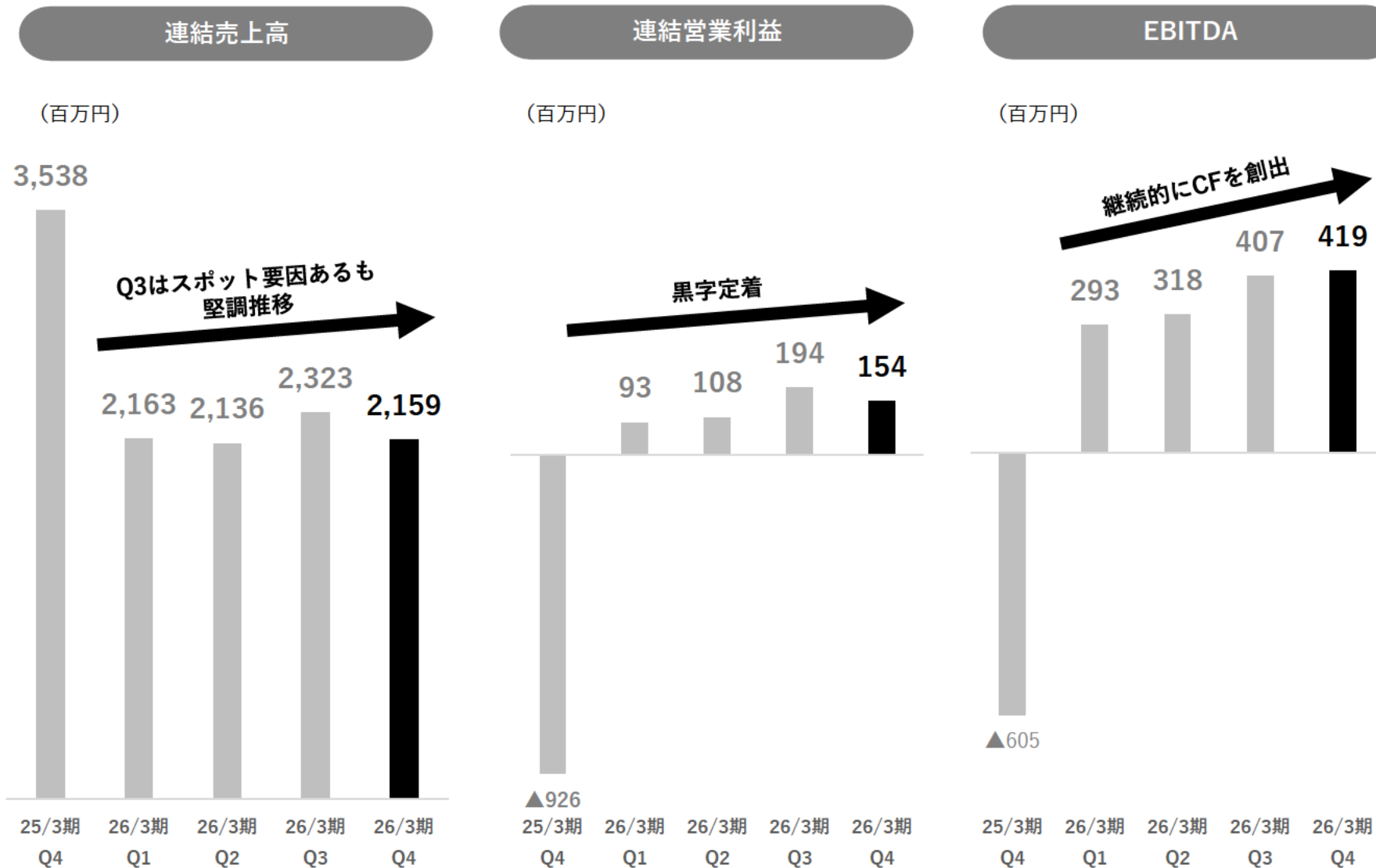
- **ソリューション**：既存のストック型収益の積み上げおよび高付加価値サービスの拡大により、**安定的な増収増益**を見込む
- **メディア**：運営中の一部スポーツ施設の閉鎖はあるものの、コスト最適化と既存資産の活用を進め、**収益基盤の安定化と効率的な事業運営を継続**。

28/3期以降を見据えた取り組み

- **ソリューション**：27/3期における売上寄与は限定的であるものの、**新規積み上げモデルの拡販に向け、外部提携含め、中長期的な収益拡大のための取り組みを推進**
- **メディア**：広告市況の不透明感を織り込みつつも、非トラフィック収益は着実に拡大。ソリューション同様**外部提携によるシナジーを含め、トラフィックに依存しない収益構造改革を加速**

【通期決算サマリー】

- 不採算事業からの撤退およびコスト構造改革の効果により、売上は安定的に推移するとともに、全四半期で営業黒字を計上
- Q3はメディア事業で一時的な増収要因が寄与。当該要因を除いても営業利益・EBITDAともに四半期を通じて増益に
- 継続的に営業キャッシュフローを創出できる体制へと移行



【通期決算サマリー】

● 「Kabutan（株探）」

課金・広告ともに順調に推移し、引き続き前年同期比35%の大幅増収。

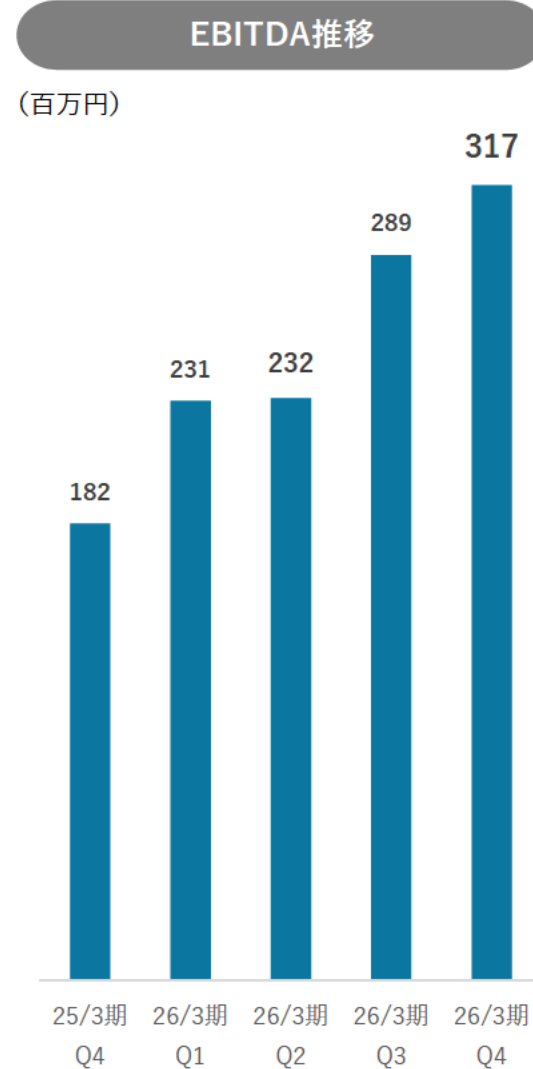
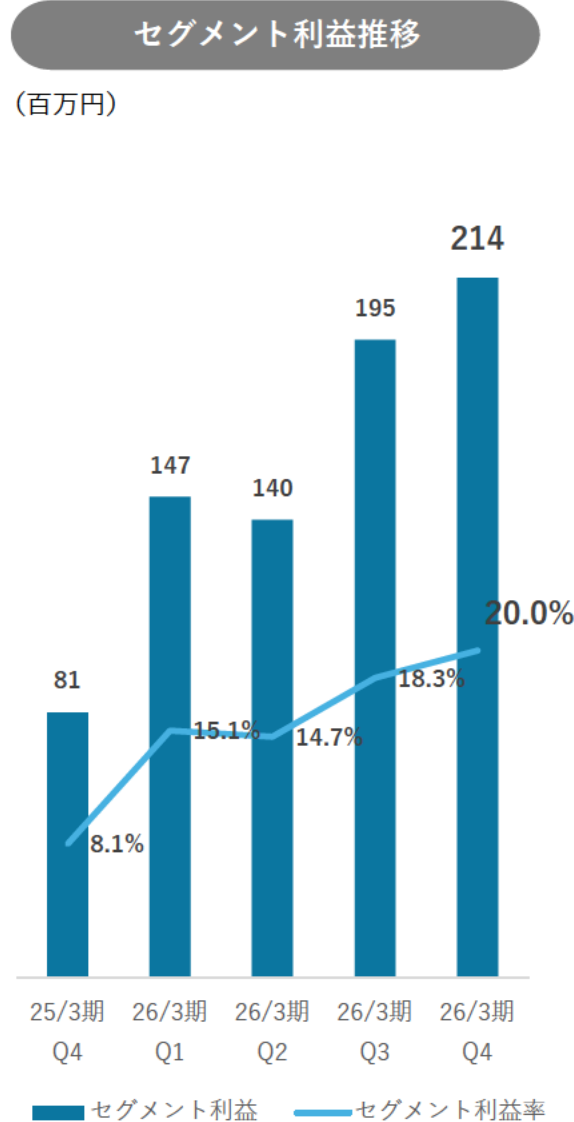
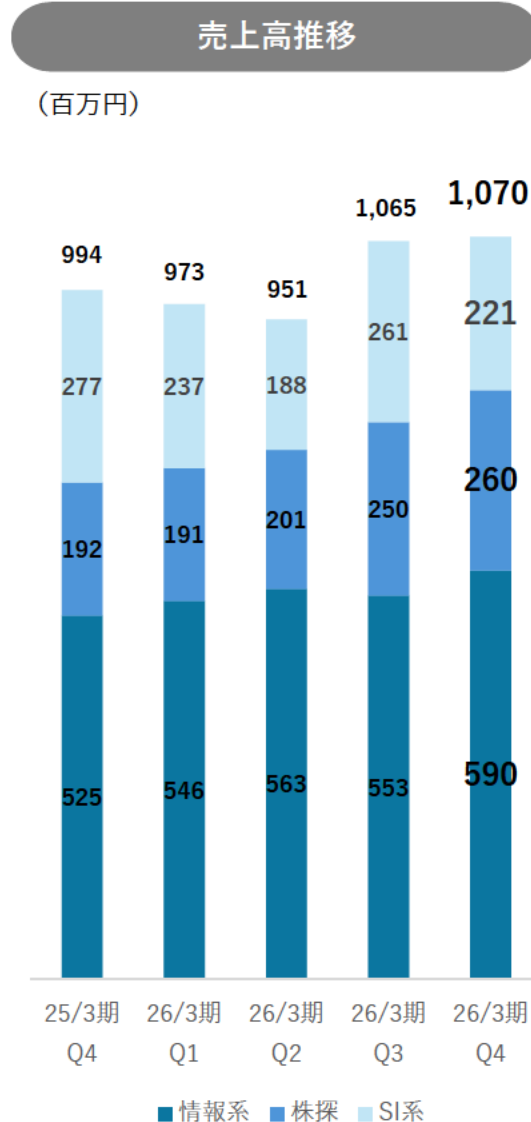
● 情報系ソリューション

ストック売上の安定成長に加え、期末スポット増収要因もあり、前年同期比12%増収

● ストック型売上

利益率の高いストック売上の継続的な伸長と固定費の削減により、前年同期比、前四半期比ともに増益を継続すると共に、利益率も向上

※下記はマネジメントフィー考慮前の数値です。



【通期決算サマリー】

● ストック型売上

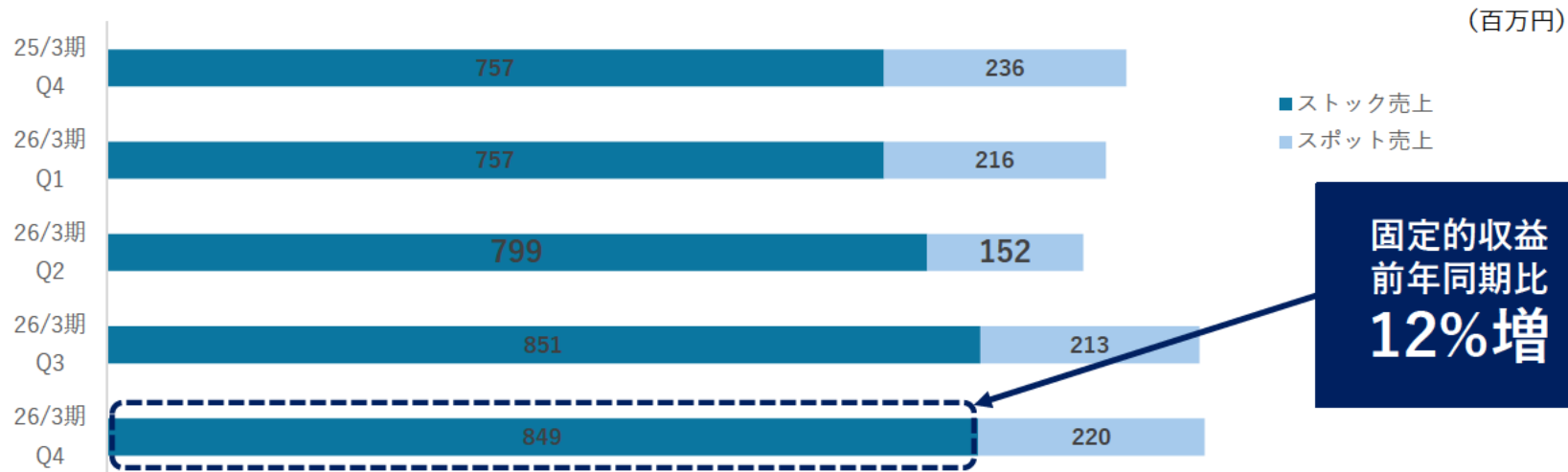
再現性の高いストック売上は「Kabutan（株探）」及び情報系の増収を中心に**前年同期比二桁%成長**を継続

● 固定費用

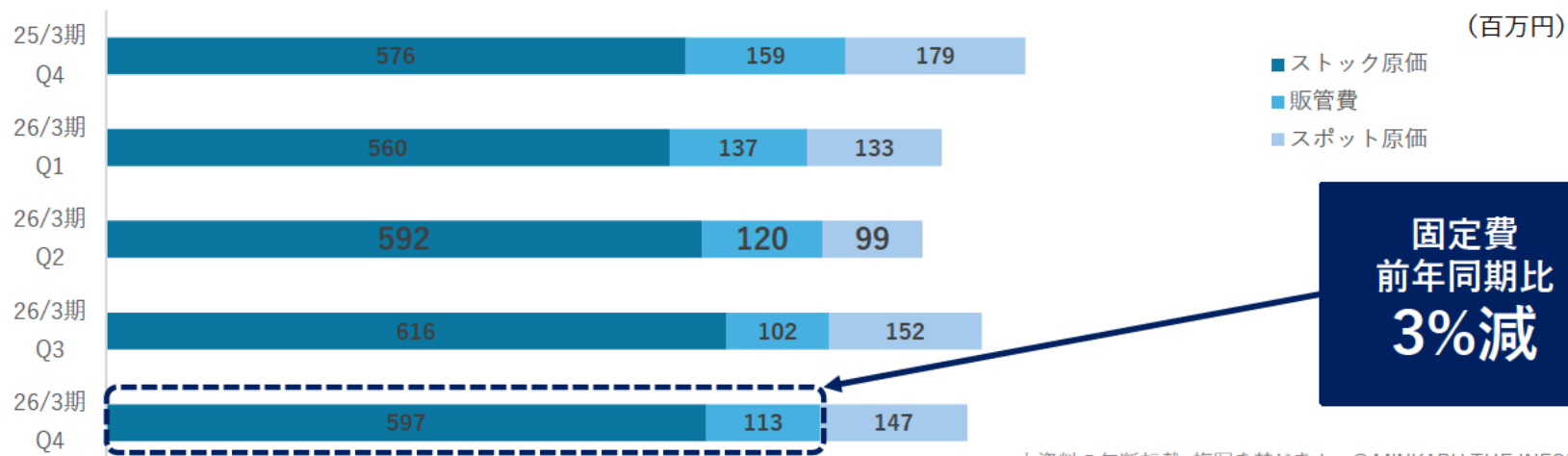
運用体制強化に伴う保守関連費用の増加に対して、他のコスト効率化により**前年同期比3%減**を継続。季節性のスポット収益の貢献もあり、**利益率は前四半期比さらに改善**

※下記はマネジメントフィー考慮前の数値です。

ストック・スポット売上推移



費用推移

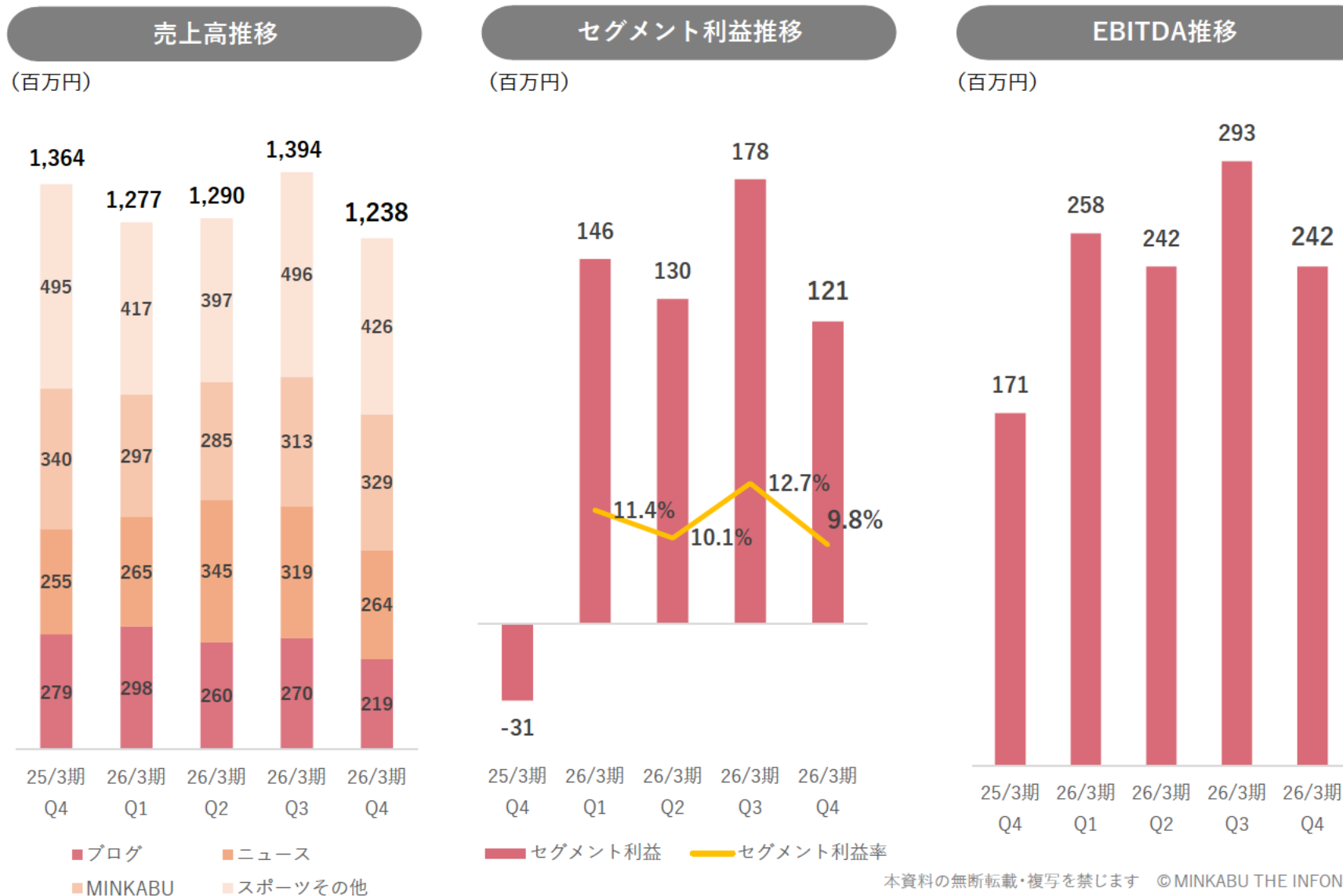


【通期決算サマリー】

● 広告収入

Q3はスポーツ事業関連でのスポット受託収入やコンテンツコマース関連収入等の一時的要因が寄与。一方、年明け以降はトラフィックが軟調に推移し、広告収入はやや減収。非トラフィック型収益の強化と費用構造改革により**安定的に黒字を確保**

※下記数値はマネジメントフィー考慮前であり、比較し易さの観点から25/3期についてはコンテンツ事業を除いております。

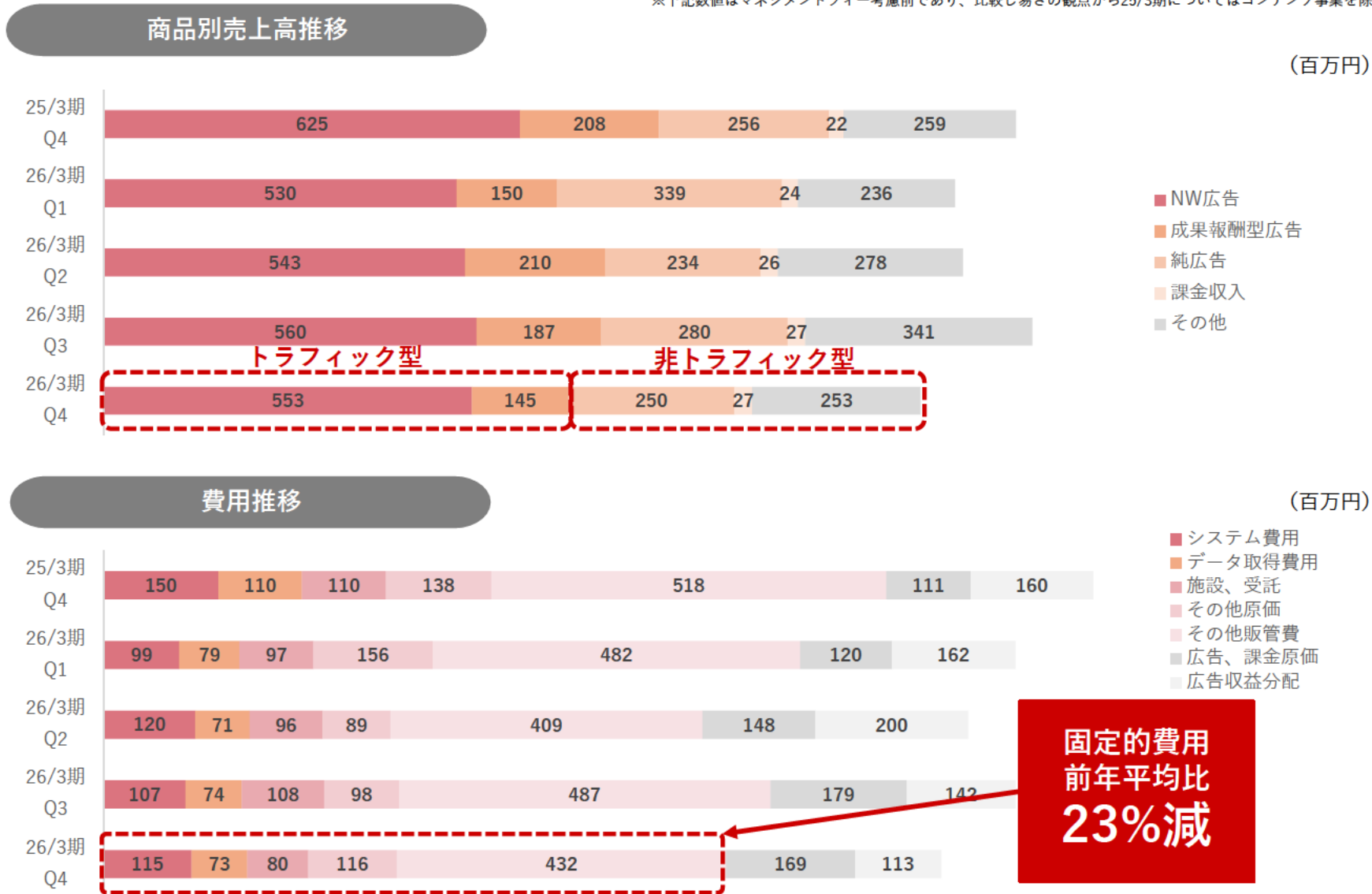


26/3期：メディア事業 非トラフィック型の強化と費用構造の改革により安定利益体制へ

【通期決算サマリー】

- **ネットワーク広告**
Q3までと同様、引き続き期初想定を上回り、一定水準の売上を維持
- **成果報酬型広告**
口座開設系の商品については計画比下振れ傾向が継続
- **純広告・その他**
Q4はQ3の一部スポーツ系のスポット受託案件の獲得による反動減あり
- **費用管理**
構造改革効果で固定的費用は25/3期平均比で約20%超の削減水準で推移

※下記数値はマネジメントフィー考慮前であり、比較し易さの観点から25/3期についてはコンテンツ事業を除いております。

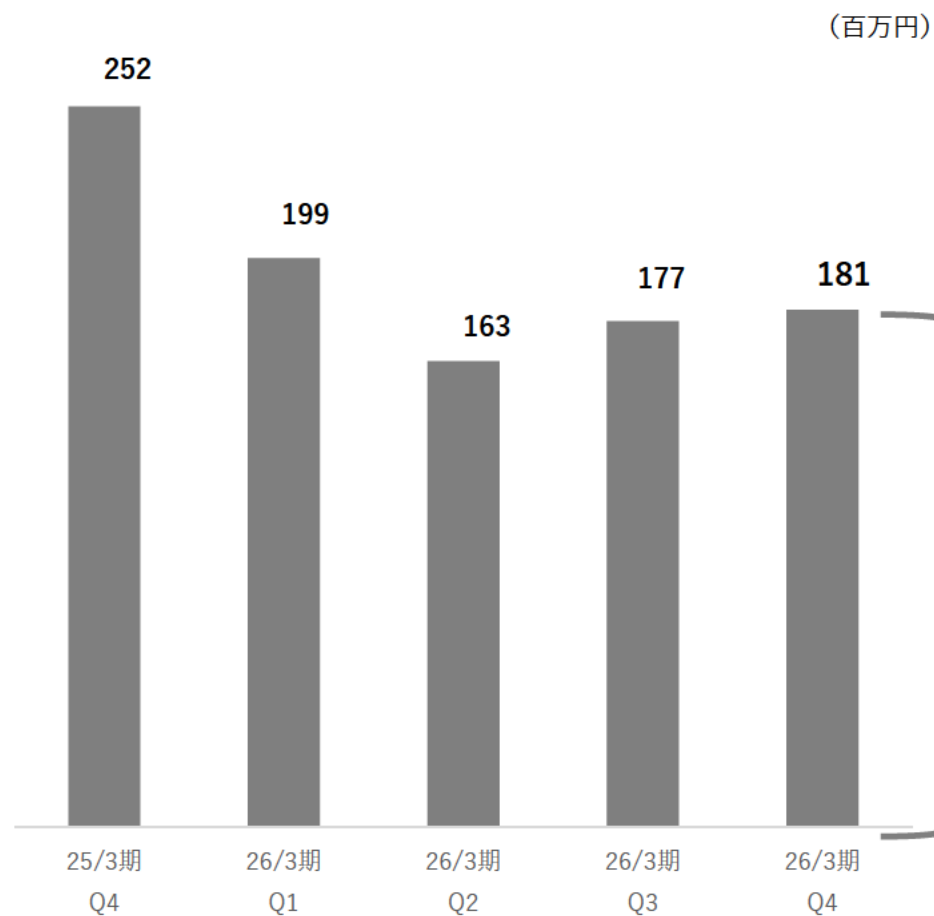


26/3期：全社コスト 費用管理の徹底で固定費は25/3期平均比30%減

【通期決算サマリー】

- 全社固定費は25/3期平均比で**30%の削減を実現**（Q3の増加は完全子会社だった株式会社ミンカブソリューションサービスの統合等に伴う一時的費用の発生を含む）
- Q4には本社移転に関連した加速度償却費用約31百万円を含む
- 本社移転により、2027年3月期以降一層の効率化とコスト抑制を推進

全社コスト四半期推移



固定費
25/3期平均比
30%削減

26/3期：財務状況 好調な業績推移を背景に財務体質が順調に改善

【通期決算サマリー】

● 現預金の順調な積み上げ

営業キャッシュ・フローの増加と投資有価証券の売却により、現預金は25/3期末比で716百万円増加し、約2.4倍に

● 自己資本も継続的に改善

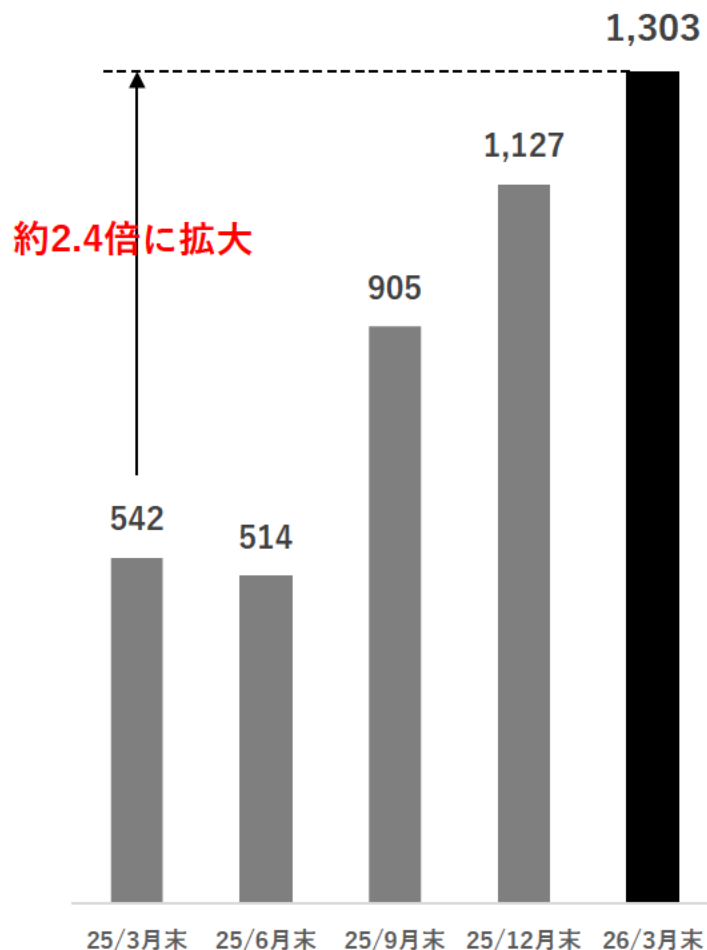
純利益と保有上場株式の評価差額金の増加により自己資本も25/3期末比で約4.5倍に増加、自己資本比率も14%台に回復

● 財務健全性の更なる向上

営業CFの継続創出、事業ポートフォリオの最適化、外部パートナー戦略を通じて、機動的な財務体質への転換を推進

現預金の推移

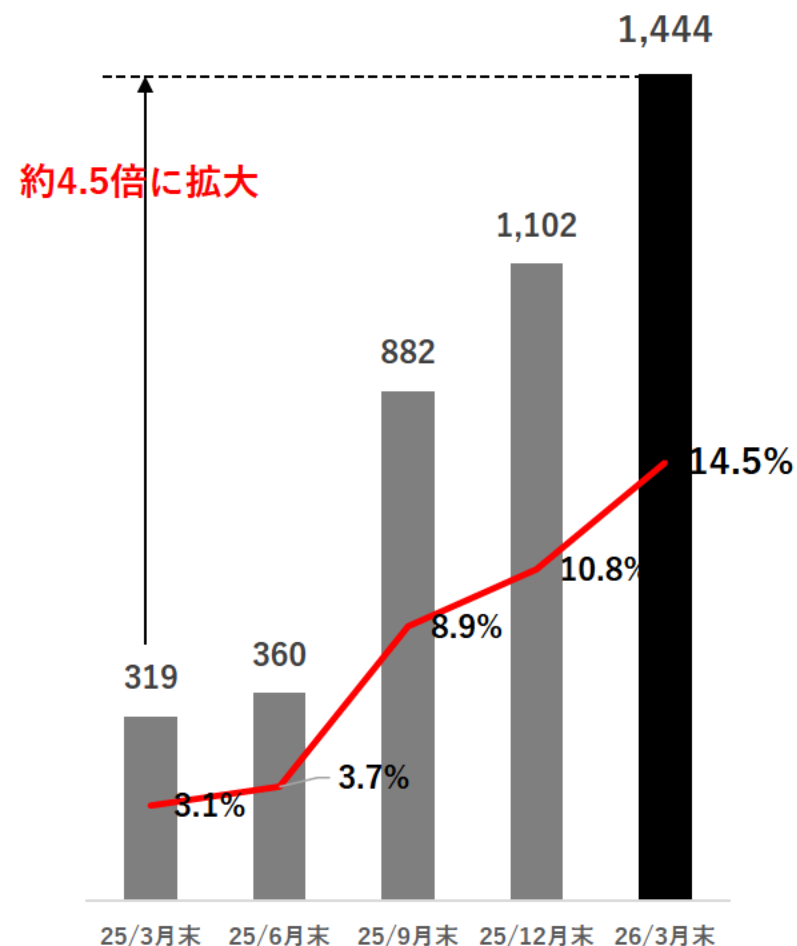
(百万円)



自己資本の推移

(百万円)

■ 純資産 ■ 自己資本比率



big data

media

index

solution

technology

information

01	はじめに	...	4
02	2026年3月期通期連結業績	...	6
03	2027年3月期通期連結業績予想	...	15
04	情報資産ドリブン型成長事業の 進捗	...	19
05	Appendix	...	23

artificial intelligence

【27/3期予想】

構造改革による黒字体質への転換は完了。27/3期以降はCAGR30%以上の営業利益成長を目指す。

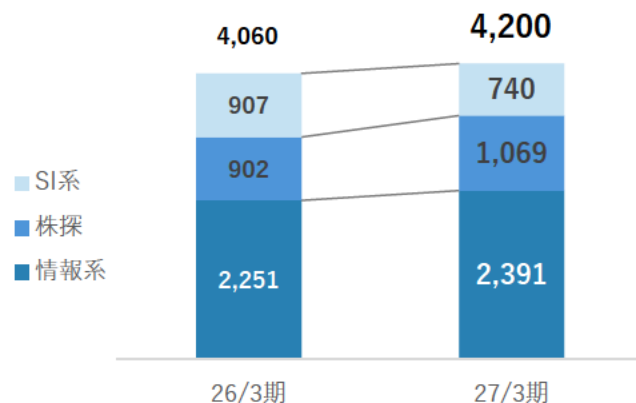
- 売上高は着実な伸長を維持しつつ、26/3期に構築した安定収益基盤をベースに、着実な利益積み上げを行い、次期の営業利益最高益更新、継続的に**CAGR30%以上**を目指す
- 26/3期の親会社株主に帰属する当期純利益には、黒字体制の確立による回収可能性の向上に伴う税効果等が影響

(百万円)	26/3期通期	27/3期予想	増減	増減率
売上高	8,780	9,000	220	2.5%
内、ソリューション	4,060	4,200	140	3.4%
内、メディア	5,188	5,300	112	2.2%
連結調整	▲468	▲500	▲32	-
営業利益	549	720	171	31.0%
営業利益率	6.3%	8.0%	1.7pts	-
内、ソリューション	696	840	144	20.7%
営業利益率	17.1%	20.0%	2.9pts	-
内、メディア	575	580	5	0.9%
営業利益率	11.1%	10.9%	-0.2pts	-
内、本社コスト	▲722	▲700	22	▲3.0%
経常利益	412	550	138	33.5%
親会社株主帰属四半期純利益	742	500	▲242	▲32.6%
EBITDA	1,436	1,700	264	18.4%

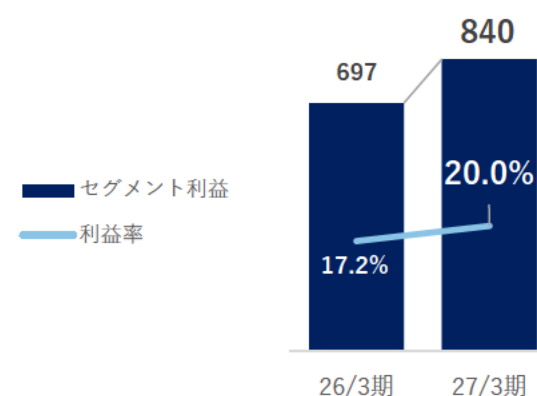
【27/3期予想】

- 引き続き再現性の高いストック売上の堅調かつ持続的成長により、更なる高収益体質を推進し、**セグメント利益率は20%程度の水準**を目指す
- 成長領域における積み上げ型収益について、27/3期における売上寄与は1億円程度を見込み、次期以降の継続成長に向けた取り組みを強化

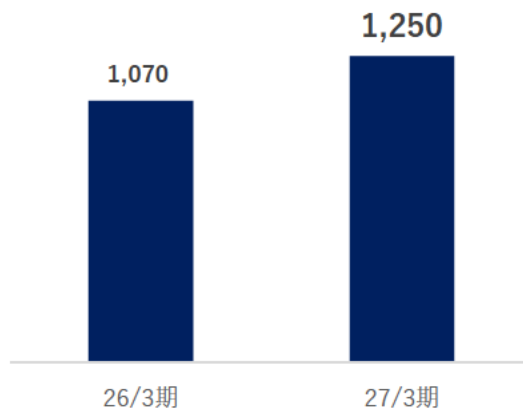
売上高推移 (百万円)



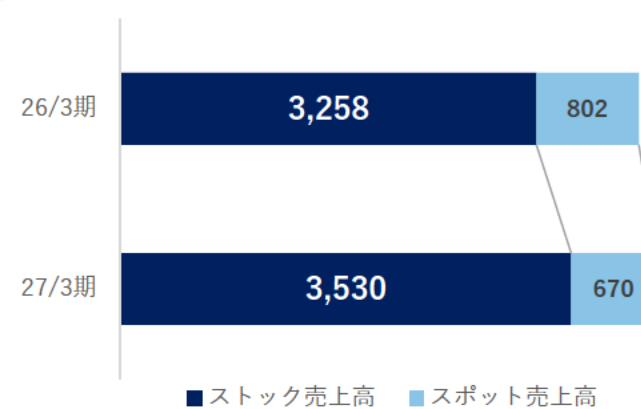
セグメント利益推移 (百万円)



EBITDA推移 (百万円)



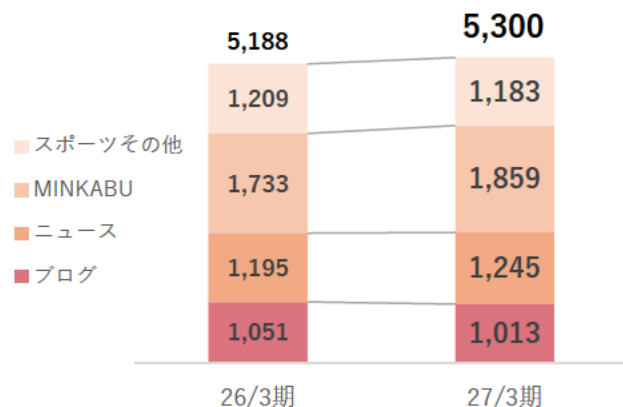
ストック・スポット売上推移 (百万円)



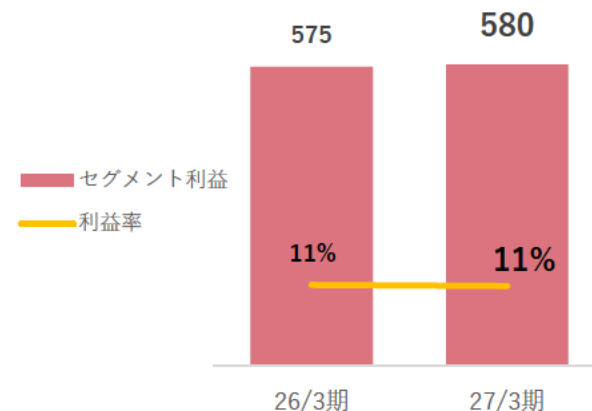
【27/3期予想】

- 26/3期は期初計画を上回る着地となったが、トラフィック型広告市況については引き続き慎重な姿勢は変わらず。利益・EBITDAともにほぼ横ばいの水準を想定
- トラフィック型収益は保守的に見る一方、クリエイターのIPコンテンツ等を活用した非トラフィック型サービスが着実に増加傾向。非トラフィック型収益比率を高めることで、収益の質の改善を図る

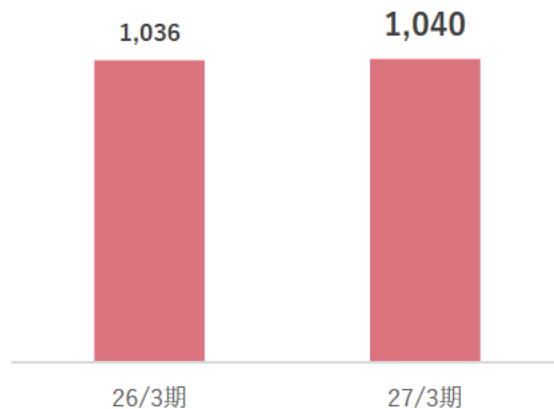
売上高推移（百万円）



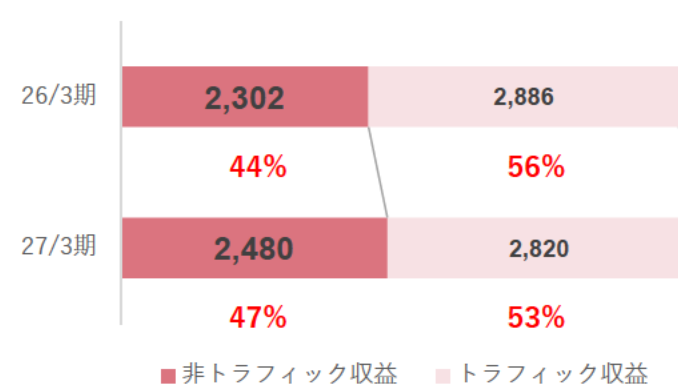
セグメント利益推移（百万円）



EBITDA推移（百万円）



収益構成推移（百万円）



big data

media

index

solution

technology

information

01	はじめに	...	4
02	2026年3月期通期連結業績	...	6
03	2027年3月期通期連結業績予想	...	15
04	情報資産ドリブン型成長事業の 進捗	...	19
05	Appendix	...	23

artificial intelligence

営業利益成長率 年率30%

メディア事業は安定収益を維持し、ソリューション事業の拡大により利益成長を図る

ソリューション事業（成長ドライバー）

拡大

- 海外市場展開
- AI系ソリューション
- 職域ソリューション
- その他情報資産活用領域

ストック型収益モデルにより
安定・継続・高利益率の収益を積み上げ

メディア事業（安定収益エンジン）

安定

- 非トラフィック型収益を強化
- 広告市況の不確実性を低減
- 安定的な利益創出を継続

メディア事業は非トラフィック型収益の強化により
安定収益エンジンとして機能

情報資産基盤

情報資産ドリブン型成長を支える基盤の強化による競争優位の源泉
(構造化された金融データ・個人投資家/生活者の行動データ長期蓄積、B2C/B2B事業展開可能な情報資産構造等)

SBIグループのネオメディア事業と連携

SBIグループとライブドアにおいて、
将来的な資本業務提携に向けた協議を開始



ライブドアの強み

- UGC/PGCによるIP創出力
- 月間1億UUのメディア基盤
- 拡散から収益化までの一体設計



SBIネオメディアホールディングスの強み

- メディア・IT・金融の融合
- 日本最大級の金融顧客基盤
- グローバルネオメディア生態系

ライブドア×SBIネオメディア事業

IP価値創出と最大化・クリエイター支援プログラム・地域経済の活性化・コンテンツプロモーション・エンタメ事業・スポーツ
トークン事業等の領域で、ライブドアが有するユーザー基盤、メディア運営や広告運営ノウハウを活かした共同での事業展開を目指す

金融レポートの当たり前を変える。

ミンカブと〈みずほ〉の挑戦。



みずほ信託銀行 × ミンカブ：共同開発による「実務品質」と「大幅な効率化」の両立

- 「資産運用立国」を支える実務AI基盤
投資信託市場拡大を背景に、高品質かつ迅速なレポート需要へ対応するAI基盤として期待
- 金融実務に耐えうる“ファクトベースAI”
「株探」等の一次情報を活用し、ハルシネーション抑制と高い正確性を実現
- 大手金融機関との共同開発による実装力
みずほ信託銀行の現場知見を反映し、実務運用可能な品質・UIを共同で構築
- レポート作成工数削減と品質向上を両立
運用担当者の文体やニュアンスまで再現し、作業効率化と実務品質を同時実現
- 証券・銀行向けへの横展開ポテンシャル
金融機関共通課題に対応可能なAI基盤として、幅広い業界展開を視野

big data

media

index

solution

technology

information

01

はじめに

...

4

02

2026年3月期通期連結業績

...

6

03

2027年3月期通期連結業績予想

...

15

04

情報資産ドリブン型成長事業の
進捗

...

19

05

Appendix

...

23

artificial intelligence

既存の情報資産・顧客基盤・行動データを活用し、Solutionを中心に高利益率の積み上げ型収益を拡大

Solution : 成長ドライバー

Media : 安定収益エンジン

営業利益CAGR30%以上の成長を追求

事業	成長領域	収益モデル	重点KPI 3年内目標	位置付け
Solution	海外証券向け	株式情報ソリューション AIコンテンツ提供	導入社数：30社以上 対象国数：韓国・台湾中心	新規顧客基盤の拡大
Solution	AI/B2Bソリューション	Robot Report AI Kabutan Market AI等	導入社数：70社 対象属性：運用会社・証券・銀行	高付加価値ストック収益
Solution	職域ソリューション	資産形成・金融教育支援	導入社数：20社以上 対象属性：全事業会社	新規ストック収益
横断	IRwith	上場企業向けIR支援 投資家データ活用	導入社数：300社以上 対象属性：上場会社	Media/Solution横断
Media	IP・ロイヤルティ	クリエイターIP 電子書籍・二次利用等	コンテンツ数：25/3期比300% DL数：25/3期比30%	非トラフィック収益強化
Media	livedoor ECHOES	AI自動記事化 広告効率改善	記事数：25/3期比200% RPM：25/3期比20%	収益効率改善

Mediaは安定収益化、Solutionは高利益率の積み上げ型収益拡大により、営業利益CAGR30%以上の成長を追求

当社は2024年3月期第2四半期連結会計期間より、グループ各社から内部取引として、マネジメントフィーを徴収しております。下表については開示の継続性の観点より、**マネジメントフィーを控除した従来開示通りの数値**を表記しております。なお、マネジメントフィーを含めた数値につきましては26・27ページに掲載しております。

(単位：百万円 / %)

	24年3月期	25年3月期	26年3月期		27年3月期	
	(連結)	(連結)	(連結)	前期比	(連結)	前期比
売上高	9,920	10,548	8,780	△16.8%	9,000	+2.5%
メディア	6,348	6,912	5,188	△24.9%	5,300	+2.1%
ソリューション	3,783	3,932	4,060	+3.3%	4,200	+3.4%
調整額 ※1	△ 212	△ 295	△ 468	-	△ 500	-
営業利益	△ 699	△ 1,911	549	-	720	+31.0%
メディア ※5	△ 236	△ 1,358	575	-	580	+0.8%
ソリューション ※5	428	389	696	+78.9%	840	+20.5%
調整額 ※2	△ 891	△ 942	△ 722	-	△ 700	-
経常利益	△ 790	△ 1,993	412	-	550	+33.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 1,180	△ 5,525	742	-	500	△32.7%
EBITDA ※3	492	△ 711	1,436	-	1,700	+18.3%

※1 セグメント間の内部売上高の振替高

※2 セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

※3 EBITDA (営業利益+減価償却費+のれん償却額)

※4 当社は2023年9月1日付で株式会社フロムワンの株式を取得し、同社を連結子会社化しております。なお、同社のみなし取得日が2024年3月期第2四半期末であることから、2024年3月期第2四半期末は貸借対照表のみを連結しております。

※5 当社は2023年7月1日より、グループ各社からマネジメントフィーを徴収しており、2025年3月期の各事業セグメントのセグメント損益へ本マネジメントフィーを加算した場合、上記メディア事業のセグメント損失1,358百万円からマネジメントフ
830百万円を加算後のセグメント損失は2,188百万円、上記ソリューション事業のセグメント利益389百万円からマネジメントフィー289百万円を加算後のセグメント利益は99百万円であります。

2026年3月期の各事業セグメントのセグメント損益へ本マネジメントフィーを加算した場合、上記メディア事業のセグメント利益575百万円からマネジメントフィー492百万円を加算後のセグメント利益は83百万円、上記ソリューション事業の
セグメント利益696百万円からマネジメントフィー219百万円を加算後のセグメント利益は477百万円であります。

※6 百万円未満切り捨て

当社は2024年3月期第2四半期連結会計期間より、グループ各社から内部取引として、マネジメントフィーを徴収しております。下表については開示の継続性の観点より、**マネジメントフィーを控除した従来開示通りの数値**を表記しております。なお、マネジメントフィーを含めた数値につきましては26・27ページに掲載しております。

(単位：百万円 / %)

	24年3月期	25年3月期	26年3月期		27年3月期	
	(連結)	(連結)	(連結)	前期比	(連結)	前期比
メディア事業	6,348	6,912	5,188	△24.9%	5,300	+2.1%
広告収入	5,193	4,243	3,978	△6.2%	3,930	△1.2%
課金収入	129	106	102	△3.6%	120	+16.7%
その他	1,026	2,562	1,107	△56.8%	1,250	+12.9%
ソリューション事業	3,783	3,932	4,060	+3.3%	4,200	+3.4%
ストック収入	2,626	2,924	3,258	+11.4%	3,530	+8.3%
内) 課金収入	440	525	590	+12.3%	690	+16.9%
初期・一時売上	1,157	1,007	802	△20.4%	670	△16.5%
調整額 ※1	△ 212	△ 295	△ 468	—	△ 500	—
合計	9,920	10,548	8,780	△16.8%	9,000	+2.5%

※1 セグメント間の内部売上高の振替高

※2 当社は2023年9月1日付で株式会社フロムワンの株式を取得し、同社を連結子会社化しております。なお、同社のみなし取得日が2024年3月期第2四半期末であることから、2024年3月期第2四半期末は貸借対照表のみを連結しております。

※3 百万円未満切り捨て

当社は2024年3月期第2四半期連結会計期間より、グループ各社から内部取引として、マネジメントフィーを徴収しております。下表については**マネジメントフィーを含めた数値**を記載しております。

(単位：百万円 / %)

	24年3月期	25年3月期		26年3月期		27年3月期	
	(連結)	(連結)	前期比	(連結)	前期比	(連結)	前期比
売上高	9,920	10,548	+45.1%	8,780	△16.8%	9,000	+2.5%
メディア	5,877	6,081	+132.7%	4,696	△22.8%	4,910	+4.5%
ソリューション	3,493	3,642	△19.7%	3,841	+5.5%	3,890	+1.3%
調整額 ※1	548	824	—	242	△70.6%	200	△17.6%
営業利益	△ 699	△ 1,911	—	549	—	720	+31.0%
メディア ※5	△ 706	△ 2,188	—	83	—	190	+127.9%
ソリューション ※5	138	99	△83.3%	477	+379.1%	530	+11.0%
調整額 ※2	△ 131	178	—	△ 11	—	0	—
経常利益	△ 790	△ 1,993	—	412	—	550	+33.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	△ 1,180	△ 5,525	—	742	—	500	△32.7%
EBITDA ※3	492	△ 711	△51.7%	1,436	—	1,700	+18.3%

※1 セグメント間の内部売上高の振替高及びマネジメントフィー徴収総額

※2 セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

※3 EBITDA (営業利益+減価償却費+のれん償却額)

※4 当社は2023年9月1日付で株式会社フロムワンの株式を取得し、同社を連結子会社化しております。なお、同社のみなし取得日が2024年3月期第2四半期末であることから、2024年3月期第2四半期末は貸借対照表のみを連結しております。

※5 当社は2023年7月1日より、グループ各社からマネジメントフィーを徴収しており、2025年3月期の各事業セグメントのセグメント損益へ、本マネジメントフィーを控除した場合、上記メディア事業のセグメント損失2,188百万円に含まれるマネジメントフィーは830百万円であり、本費用控除前のセグメント損失は1,358百万円、上記ソリューション事業のセグメント利益99百万円に含まれるマネジメントフィーは289百万円であり、本費用控除前のセグメント利益は389百万円であります。2026年3月期の各事業セグメントのセグメント損益へ、本マネジメントフィーを控除した場合、上記メディア事業のセグメント利益83百万円に含まれるマネジメントフィーは492百万円であり、本費用控除前のセグメント利益は575百万円、上記ソリューション事業のセグメント利益477百万円に含まれるマネジメントフィーは219百万円であり、本費用控除前のセグメント利益は696百万円であります。

※6 百万円未満切り捨て

当社は2024年3月期第2四半期連結会計期間より、グループ各社から内部取引として、マネジメントフィーを徴収しております。下表については**マネジメントフィーを含めた数値**を記載しております。

(単位：百万円 / %)

	24年3月期	25年3月期		26年3月期		27年3月期	
	(連結)	(連結)	前期比	(連結)	前期比	(連結)	前期比
メディア事業	5,877	6,081	+132.7%	4,696	△22.8%	4,910	+4.5%
広告収入	5,193	4,243	+114.5%	3,978	△6.2%	3,930	△1.2%
課金収入	129	106	+96.1%	102	△3.6%	120	+16.7%
その他	1,026	2,562	+2,553.9%	1,107	△56.8%	1,250	+12.9%
その他(マネジメントフィー控除額) ※3	△ 470	△ 830	-	△ 492	-	△ 390	-
ソリューション事業	3,493	3,642	△19.7%	3,841	+5.5%	3,890	+1.3%
ストック収入	2,626	2,924	△15.2%	3,258	+11.4%	3,530	+8.3%
内) 課金収入	440	525	+27.2%	590	+12.3%	690	+16.9%
初期・一時売上	1,157	1,007	△7.7%	802	△20.4%	670	△16.5%
その他(マネジメントフィー控除額) ※3	△ 289	△ 289	-	△ 219	-	△ 310	-
調整額	548	824	-	242	△70.6%	200	△17.6%
調整額(その他) ※1	△ 212	△ 295	-	△ 468	-	△ 500	-
調整額(マネジメントフィー) ※3	760	1,120	-	711	△36.5%	700	△1.6%
合計	9,920	10,548	+45.1%	8,780	△16.8%	9,000	+2.5%

※1 セグメント間の内部売上高の振替高

※2 当社は2023年9月1日付で株式会社フロムワンの株式を取得し、同社を連結子会社化しております。なお、同社のみなし取得日が2024年3月期第2四半期末であることから、2024年3月期第2四半期末は貸借対照表のみを連結しております。

※3 当社は2023年7月1日より、グループ各社からマネジメントフィーを徴収しており、各事業セグメントのセグメント売上高は、本マネジメントフィーを控除した金額であり、徴収したマネジメントフィーは調整額に含めて表示しております。

※4 百万円未満切り捨て

(単位：百万円 / %)

	24年3月末	25年3月末		26年3月末	
	(連結)	(連結)	前期末比	(連結)	前期末比
流動資産	4,132	2,039	△37.1%	2,451	+20.2%
うち 現金及び預金	2,047	542	△54.1%	1,303	+140.1%
固定資産	10,706	7,943	+7.4%	7,545	△5.0%
資産合計	14,838	9,982	△10.3%	9,996	+0.1%
流動負債	2,734	4,376	+41.9%	8,195	+87.3%
固定負債	5,919	5,286	△12.3%	356	△93.3%
負債合計	8,654	9,662	△0.3%	8,552	△11.5%
資本金	3,534	320	+0.1%	421	+31.3%
資本剰余金	3,806	6,632	△9.2%	6,733	+1.5%
利益剰余金	△ 1,199	△ 6,725	—	△ 5,982	—
その他	28	80	△49.6%	272	+239.1%
非支配株主持分	14	11	△84.0%	—	—
純資産合計	6,184	319	△21.3%	1,444	+351.5%

※1 当社は2023年9月1日付で株式会社フロムワンの株式を取得し、同社を連結子会社化しております。なお、同社のみなし取得日が2024年3月期第2四半期末であることから、2024年3月期第2四半期末は貸借対照表のみを連結しております。

※2 当社は2025年3月31日付で、連結子会社の株式会社ミンカブアセットパートナーズを売却しております。

※3 当社は2025年6月2日付で、連結子会社の株式会社ミンカブWeb3ウォレットを売却しております。

※4 百万円未満切り捨て

The logo for Infonoid, featuring the word "infonoid" in a white, italicized, sans-serif font, centered within a dark gray rounded rectangular background.

infonoid

本資料に記載されている情報のうち、歴史的事実以外の情報は、将来の見通しに関する情報を含んでいます。将来の見通しに関する情報は、当社が現在入手している情報に基づく、現時点における予測、期待、想定、計画、評価等を基礎として記載されており、リスクや不確実性が含まれています。当社は将来の見通しに関する記述の中で使用されている定期予測、評価ならびにその他の情報が正確である、または将来その通りになるということは保証いたしかねます。本資料に記載されている情報は、本資料に記載の日付に作成され、その時点における当社の見解を反映するものであり、このため、その時点での状況に照らして検討されるべきものであることにご留意ください。当社は、当該情報の作成日以降に発生した事を反映するために、本資料に記載された情報を逐次更新及び報告する義務を負いません。